



Global
Next Leaders
Forum

Tokyo 2019
Belonging
to a
Minority

第3.2次企画書
2018年10月29日改訂

2.会頭挨拶

-1

グローバル・ネクストリーダーズフォーラム学生本部(以下GNLF)において、2018年度会頭を務めております林航平と申します。こちらでは、私がGNLFで会頭を務める上での意向について説明いたします。

GNLFのアイデンティティ

2018年度も、これまでの執行代と同様に年に一度の本会議の開催を主な活動内容に位置づけます。GNLFの本会議には、「i) 他者」の「ii) 個人的な価値観」を「iii) 知る」ことに特化しているというユニークな価値があり、これが本会議を活動の中心に据え続ける理由です。

i) 他者

ここでは、「他者」を「国籍のみならず、文化や宗教など育った環境の異なる人々」という意味で用いています。2017年度のGNLFの本会議では12の国と地域からの参加者が一堂に会し、一つのトピックについて議論を交わしました。このような規模の国際交流を行う機会は、iii)で後述する理由からも非常に大きな価値があります。

GNLFは、先進国のみならず文字通り世界各国からの生徒を募集しています。GNLFでは、これを現実的に可能にするために世界の様々な国の大学の教授とコンタクトをとり、学生へのGNLFの紹介や参加学生の選抜をお願いしています。

ii) 個人的な価値観

私たちの生きる社会は情報過多の一途をたどる時代であり、様々な集団の代表的な意見を知ることは容易です。しかし、往往にして代表的な意見は数の上での多数派の意見であったり、様々な意見を組み合わせた中道的な意見であったりするため、集団に属する一個人の生の声を聞くのは今の時代でも容易ではありません。

GNLFの本会議のセッションは、参加者する学生が無自覚のうちに前提としている価値観が文化によって異なることに気づく契機となることを目標として組み立てられています。自分と異なった価値観は簡単に受け入れられるものではありませんが、パーソナリティを持った個人として接することで安易に拒絶することの危険さに気づくことができます。また、民族や宗教・国籍などの特定の集団に付きまとうステレオタイプのみで集団の中の個人について先入観を構築することを防ぐ役割もあります。

2. 会頭挨拶 -2

iii) 知る

自分と異なった価値観に触れることは、新しい一つの事実を認知することと比べて大きな意味があります。

自分が当然視していることが相手と共通でないということは、相手との間で理解を図るべき事柄があらたに生じるということです。自分が前提として物事を考えている土台は、土台が共通の相手との中ではその存在に気付きにくく、そのような気付きは参加者の背景が多様なGNLFならではの経験だと言えます。そして、そのような土台について相手に説明する過程で、自分が無意識のうちに陥りがちな傾向を把握する、すなわち自分自身の考えを相対化することができます。

また、i)で述べた多様な他者と一つのトピックについて話し合うだけでなく、寝食を共にすることで初めて見えてくる価値観の差もあります。学会のようにアカデミックな場でもなく、単なる異国の観光でもない、学生団体の主導する国際交流だからこそ提供できる価値があります。

GNLFは、次世代のリーダーの育成を目標としています。そして、リーダーの育成の上で、ステレオタイプで集団を判断しないこと・自分の考えの相対化が大きな価値をもつと考えています。そのような機会を提供する場としての本会議を目指して活動を行います。自分がGNLFで何をしたいのかということ踏まえた上で、これまでのやり方を踏襲すべきところは踏襲し改めるべきところは改めて、会頭職として2019年春の本会議にむけて邁進いたします。

グローバル・ネクストリーダーズフォーラム学生本部
2018年度会頭 林航平

3. 設立趣意

-1

社会のフラット化が進展するグローバリゼーションにおいて、文化や習慣、宗教などの「差異」は強みになる一方で、これまでになく人々の間に摩擦を引き起こしています。差異を前提に、互いを理解し尊重する。それこそグローバル社会において最も重要な原則であり、また多様性を増す国内社会においても必要な姿勢ではないでしょうか。また、冷戦の崩壊とグローバリゼーションの進展で、あらゆる国家が他国との関係を抜きに存在し得ない時代が到来し、良好な外交関係を可能な限り多くの国との間に築くことの重要性は、いかなる国にとっても増しています。

私たちは、「国と国との関係も、人と人との関係から始まる」という信条のもと、多様性を増す国際社会において互いを理解し尊重する姿勢を持ち、自国を代表して諸外国と良好な関係を築く役割を果たすことのできる人間こそ、これからの日本に、そして世界各国に必要なのではないかと、そしてそのような人間こそ21世紀にふさわしい「グローバル・リーダー」なのではないかと考えるに至りました。

グローバル・リーダーは単にスキルを持った人間のことを指すものではありません。差異を前提に互いを理解し尊重する態度や、急激な環境変化の中で柔軟に問題に対処する姿勢といった人格を含む、人間性そのものなのです。

ですからグローバル・リーダーを一朝一夕に形成することはできません。それは長期的な人間関係や人格形成・学習プロセスを通じて形成される人間性だからです。そこで私たちは、将来の世界を担う可能性と意思を持つ大学生が一堂に会する国際会議を「起点」として、数年～数十年の長きにわたりプログラムへ関与することを通じて一人ひとりがグローバル・リーダーへと自律的に成長できるような場を、そして彼らが人間的な絆を深めてゆくことのできるような場を創造することを決意しました。

私たちがそのような場の創造に取り組むに際して基軸としたのは、「一対一ではなく多国間のプロジェクトであること」「一会議で終わらない長期的なプロジェクトであること」「これまでにない国家間関係を積極的に構築するプロジェクトであること」という3つのコンセプトです。

プロジェクトを多国間で行うことは多様性を体感する上で不可欠であり、前述の通りその長期性も欠かすことができません。加えて、これまでの外交的枠組みが徐々に通用しなくなる中で、従来は比較的疎遠だった、あるいは一方的であった国家間関係を、相互の理解と信頼に基づいた対等で双方向的な関係に進化させることの必要性から、新たな関係を積極的に構築する意義は大きいのではないかと考えました。

3. 設立趣意

-2

それでは日本人が、そして日本が、この国際的なプラットフォームを主導する意義とは何でしょうか。

我が国では国際的プレゼンスの低下が問題となり、日本の将来について悲観的な声が蔓延しています。日本人は「外交下手」とも「内向き」とも評されます。さらに、東日本大震災で露呈したのは「世界に対して、必要な情報を正確に発信する力」「世界の言論と行動をリードし、よりよい国際社会を構築して行くリーダーシップ」の不足でした。各界において国を背負い国際的に活躍できるグローバル・リーダーの育成が、最も急務になっている国こそ日本だと言えるでしょう。そのような意味でこのプロジェクトを日本人自身が推し進める意義は大きいはずです。

しかしそれだけではありません。日本は世界に先駆けて第二次世界大戦後の高度成長を成し遂げた国であり、また世界に先駆けて金融危機や超高齢化を経験している「課題先進国」なのです。日本が直面してきた、そして直面している課題の多くはこれから世界が直面する課題です。そこで日本の知見や経験を大いに生かすべきではないでしょうか。そのような意味でこの「日本発のプラットフォーム」は日本にとっても、世界各国にとっても大きな意義があるものだといえるのです。

私たちはこの長期的な場において、各国を代表して参加する人々に対し「経験」「知見」「人的ネットワーク」を提供し、一人ひとりが自律的に成長できる環境の整備に尽力します。そして世界各国で求められているグローバル・リーダー育成の一端を担い、将来的にリーダー達の水平な世界的ネットワークを築き、ひいては多様な国々同士の良好な関係に結実することを目指します。

2010年9月1日

グローバル・ネクストリーダーズフォーラム

ファウンダー 森下 裕介

(2013年1月1日 一部改訂)

4.理念 -1

私たちが団体として共有している考え方である「団体理念」、理念にもとづいて掲げている目標としての「目的」、そして目的実現のための活動の方向性を表す「特徴」はこちらです。

グローバルリーダー
の創出

他者理解の機会提供
= **本会議**

- ・1つのテーマを多角的に学ぶ
- ・多国間の枠組み

i) 団体理念

グローバルリーダーを創出する。

グローバルリーダーとは、国際社会という枠組みにおいて、団体としての方向性を決定し仲間に共有し、集団としての行動を統合し統御できる人物である、と私たちは考えます。

リーダー育成の活動の軸として、GNLFでは毎年東京で本会議を開催します。本会議とは、GNLFの日本の運営メンバーが主催する年一度の国際学生会議です。

4.理念

-2

ii)目的

他者理解による自己像の認識を本会議の目的とし、それを通じてグローバルリーダーの創出を達成したいと考えております。

他者と深く交流し他者を理解することは、自分を知る契機となります。他人が自分をどのように捉えるかは人によって異なるため、価値観やバックグラウンドの異なる人と接することで、他人の自分に対する評価を知ることができます。この学びから、他人に信頼されるにはどのような言動を起こせば良いのか、またどのように自分の長所をいかし短所を克服することで他人に信頼されるかを知ることができます。他人から信頼を得ることはリーダーに不可欠な要素の1つです。このような他者理解の機会を本会議という形で経験することでグローバルリーダーに必要な他人からの信頼感の得方を身につけることができます。

iii)特徴

GNLFの本会議の特徴は2点あります。

○多国間の枠組みである。

政治的、経済的影響力の大小に関わらず様々な地域の様々な規模の国の参加者を募ることで、会議での前提が先進国視点、大国視点に寄らないよう綿密に参加国が選定されています。一般的に先進国からの参加者に偏ってしまうことの多い国際会議の中で、グローバル・ネクストリーダーズ・フォーラムは他の国際会議と一線を画しており、国の規模にかかわらず様々な国の参加者と交流することができます。

○1つのテーマを多角的に考察するやり方を学ぶことができる。

毎年1回開催される本会議において1つのテーマを決定し、そのテーマにそくしたセッションを行うことで様々な角度から1つのテーマについて考察することができます。そのテーマについての見識を深めることができるだけでなく、1つのテーマが与えられそれについて考察を加えていく際、どのようにそのテーマへの学びを深めることができるのかという学びの過程を経験することで、今後の学びでも大いに活用できます。

5.2018年度本会議開催概要

1) 期間

2019年（2018年度）2月18日～2月27日

2) 開催地

東京

3) 主催

グローバル・ネクストリーダーズフォーラム

4) 参加予定国

4-1) 2018年本会議参加国

キルギス、中国、日本、ブラジル、ブルガリア、南アフリカ、メキシコ、オーストラリア、シンガポール、パキスタン、チュニジア、ハンガリー、フランス

4-2) 新規参加国

数カ国程度

5) 参加予定人数

5-1) 日本人学生

本部運営20人程度に加え、団体外からの参加者も募集予定

5-2) 外国人参加者

学生：各国3人程度
教授：希望国から最大1人

6) 予算

本企画による予算とは、本会議開催に伴う予算のことを指し、春合宿および直前合宿については、参加者の自己負担により開催するものとします。主催者たる会議運営本部は、開催期間中の日本国内における一切の諸費用を負担します。

本部負担分の費用は、以下の方法により資金調達を行います。

1. 財団・大学等による助成
2. 各国学生の負担（日本国内参加者・海外参加者）

6.議題

-1

2018年度本会議テーマ：

マイノリティに属するということ

Belonging to
a minority

1. テーマ設定理由

現在、スペインのカタルーニャ地方の独立運動が激しさを増し、またアメリカのトランプ大統領が特定地域からのアメリカへの入国を禁じるなど、自国のマジョリティとは異なる文化的価値観を持つマイノリティを排除する動きが強まっています。このような社会情勢を踏まえ、GNLFでは2018年の本会議テーマを「**マイノリティに属するということ**」に設定しました。

6.議題

-2

2月18日(月)		
8:30~20:00	到着受け入れ	オリセン
20:00~	夕食・就寝	オリセン

2月19日(火)		
10:00~12:00	開会式・基調講演	オリセン
13:00~17:00	アイスブレイク	オリセン
17:15~19:00	アクティビティ	オリセン

2月20日(水)		
9:00~12:00	Session 1	オリセン
13:00~18:00	Session 2	オリセン
18:00~	夕食・課題等	オリセン

2月21日(木)		
9:00~12:00	Session 2	オリセン
13:00~18:00	Session 2	オリセン
18:00~	アクティビティ	オリセン

2月22日(金)		
9:00~12:00	Session 3	オリセン
14:00~16:00	Session 3	外部会場
16:00~20:00	文化交流会	外部会場

6.議題

-3

2月23日(土)

9:00~13:00	Session 3	オリセン
14:00~17:00	フィールドワーク	外部会場
18:00~20:00	課題・夕食	オリセン

2月24日(日)

10:00~11:30	Session 4	外部会場
12:30~16:30	Session 4	外部会場
16:45~19:00	Session 4	外部会場

2月25日(月)

9:00~12:00	Session 4	オリセン
13:00~18:00	Session 4	オリセン
18:00~	Session 4	オリセン

2月26日(火)

終日	都内観光	
----	------	--

2月27日(水)

9:00~12:00	閉会式準備	オリセン
13:00~15:00	キャンパスツアー	本郷キャンパス
16:00~20:00	閉会式・報告会	本郷キャンパス

※オリセン：国立オリンピック記念青少年総合センター

6.議題

-4

3. セッション構成

Session-1 マイノリティとはなんなのか — これまで知らなかったような特殊なマイノリティの例にふれることで、これまでのマイノリティの理解について考え直す

2/20(水) 9:00~12:00

このセッションでは、いわゆるジェンダーや移民、障害者以外に通常の文脈ではあまり”マイノリティ”として扱われないような数的少数派について考察を広げます。いわゆる”マイノリティ”と字義的なマイノリティとを比較し、この本会議を通してのテーマである「マイノリティ」という言葉をここで定義し直します。このセッションは、ファシリテーターに投げかけられるクローズドクエスチョンよりリードされる全体でのディスカッションを予定しており、各参加者には積極的にディスカッションに参加するパッションが求められます。

Session-2 マイノリティとは均質なのか — セクシュアルマイノリティや障害者、難民、移民など、いわゆる”マイノリティ”には様々なマイノリティが含まれており、これらが複合的に折り重なっているのが現実世界で起こっていることだということを踏まえ、マイノリティとマイノリティの共通点および相違点について分析的に議論を行う

2/20(水) 13:00~17:00

2/21(木) 9:00~17:00

このセッションは、

1.マジョリティ・マイノリティといった問題に取り組む上で不可欠な基礎的なアカデミックな知識と視点を獲得する

古来の学問(社会学、政治学etc)の世界では、マイノリティ・マジョリティの関係やそれぞれの性質はどのように研究されてきたかを、いくつかの説に基づいて学ぶ。

2.学んだことを実際に用いて現実のマイノリティ問題に関して比較分析を行う

1.で学んだ手法を用いてグループワークにおいて様々なマイノリティ・マジョリティの事例の問題分析を行い、グループごとにプレゼンテーションを行う。この中で、様々なマイノリティ問題にはそれぞれどのようなアクターがいるのか、アクターどうしの関わり合いの点で多様な構造を持っていることを学ぶ。

6.議題

-5

3.比較分析を行った結果を模擬的なゲームを通じて実際に体験し、現実的な問題であることを体感する

実際にマイノリティ・マジョリティに属することは何を意味するのか、もしくは互いにどのような影響を受けている・与えているのかを社会心理学上の実験を参考にし設計したゲームを通して体感する。

といったことを行うセッションであり、

「"マイノリティ"という言葉で一つに分類される様々な問題は実際は多様であること」を理論・実践両面の上で理解する

ということをセッションの最終的な到達目標として設定しています。

Session-3 マイノリティとは弱者なのか — 芸術分野に
ような独創性の評価される分野においてはマイノリティという希
少性こそが付加価値をもたらすといったことも起こりうるとすれ
ば、その数的な少なさという構造以外にマイノリティの弱者性の
原因となっているものはないのか考え直す

2/22(金) 9:00~16:00

2/23(金) 13:00~17:00

このセッションは、

1.マイノリティであるということがアドバンテージにもなりうる芸術という分野について考察する

実際に参加学生本人がアートを創出する立場およびアートに対して評価を下す立場を経験することで、アートにおいてマイノリティであるということについて当事者の視点から考察を行う。

2.マイノリティであることのディスアドバンテージの一つであるリーチできるマーケットの小ささについて解決策を考える

アートの中でもマイノリティとして付加価値を獲得している例の一つとして伝統芸能といったものについて考察を深め、伝統芸能とテクノロジーを組み合わせることによりマジョリティからも理解や注目を集めている事例について学び、他の事例についてもより大きな発信力を獲得する術がないか解決策を提案する。

といったことを行うセッションであり、

マイノリティに属することを多角的に捉え、ディスアドバンテージと同時に稀少さといったアドバンテージを獲得していることを踏まえて、プレゼンスの小ささといった問題を改善するための解決策を考える

ということをセッションの最終的な目標として設定しています。

6.議題

-6

Session-4 マイノリティとマジョリティはどう共存するのか — マイノリティとマジョリティの間でプレゼンスという観点でパワーバランスに差があるとき、マイノリティとマジョリティが同等の立場に立つためにはどうすればよいのか参加者自身がプランニングを行うことでリアルの世界に対する感性を養う

2/24 10:00~19:00

2/25 9:00~21:00

このセッションは、
メインテーマとして

「マイノリティがマジョリティと同等の地位を獲得するためにはどうすればよいのか」

といった議題を設定していて、これに対してプランニングを行う際の前段階で、

A. 「マイノリティがマジョリティに比べ自身の存在に関する情報発信力という点において劣っているという状況があるとき、このマイノリティがマジョリティと同等のプレゼンスを獲得するということと、マイノリティとマジョリティが共生するということは同義なのか」

B. 「大衆はポピュリズムのような利益誘導的な主義主張に流されやすい傾向があるが、エリート層は、マイノリティの救済を行いたいという目的の下で、大衆と歩み寄り協調的な路線を採択するにはどうすればよいか」

といったサブトピックを設定し、これらのトピックについてそれぞれAに関しては外部から講演者の方を招いたパネルディスカッション、Bに関しては文献などのアカデミアの観点からのディスカッションなどのプログラムを通して理解を深めた上で改めてメイントピックに取り組みます。

また、このセッションの一部として、弊団体が創立より10周年を迎えることもあり、弊団体のOB・OGの方を招いた交流会を行うことを予定しており、具体的な形としては参加者が運営メンバーとともにキャリア設計などについてお話を伺う座談会のような形を想定しています。

メイントピックに関しては、グループワークの中で具体的なプランニングを行うことによりリアルの世界で起こっていることに対して実際的な感性を身につけることを目標とします。また、お越しいただいたOB・OGの方にもグループワークにメンターとして加わっていただくことにより、社会ですでに活躍されている方の視点からアドバイスを伺えるようなプログラム設計にする方針です。

7-1.体制 (昨年度実績)

特別後援

読売新聞社

協賛

三菱商事株式会社
日経カレッジカフェ

助成

独立行政法人 国際交流基金
公益財団法人 双日国際交流財団
公益財団法人 庭野平和財団

寄付

一般社団法人 東大駒場友の会

7-2.体制 (2018年度)

特別後援

読売新聞社

助成

 公益財団法人 双日国際交流財団

公益財団法人 平和中島財団
公共財団法人 三菱UFJ国際財団

協賛

株式会社 futurelabo
三菱商事株式会社

寄付

一般社団法人 東大駒場友の会

8. 学生本部 役職一覧

代表

林航平 (東京大学教養学部理科三類 2年)

総務局長

合田智揮 (東京大学教養学部理科一類 2年)

財務局長

高木友貴 (東京大学教養学部文科一類 2年)

プログラム局長

倉石東那 (津田塾大学学芸学部国際関係学科 2年)

渉外局長

伊藤舜将 (東京大学工学部社会基盤学科 3年)

顧問

顧問教授

遠藤貢 (東京大学大学院総合文化研究科教授)

助言・指導

森下裕介 (ファウンダー)

谷口大祐 (初代事務局長)

9.連絡先一覧

学生本部

住所

〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-6 アトラスビル6階 IBIC本郷内

公式ホームページ

<http://jp.g-nextleaders.net>

メールアドレス

gnlf-hq@g-nextleaders.net

お問い合わせ

本企画書に関するお問い合わせは、上記学生本部メールアドレス、または以下の会頭連絡先までお願いいたします。

会頭 林航平(東京大学教養学部2年)

hayashi.k.gnlf@gmail.com